



Hewlett Packard
Enterprise

HPE OneView 5.0 インストールガイド

摘要

本書では、HPE ProLiant DL および HPE BladeSystem のハードウェア環境でサポートされているハイパーバイザー上で HPE OneView 仮想アプライアンスをインストールおよび更新するための手順について説明します。

部品番号: P01317-194
発行: 2019 年 8 月
版数: 1

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。Hewlett Packard Enterprise は本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクを使用すると、Hewlett Packard Enterprise Web サイト外に移動します。Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報は Hewlett Packard Enterprise の管理対象外であり、それらの情報について責任を負いかねますのでご了承ください。

商標

Microsoft[®]、Windows[®]、および Windows Server[®]は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

VMware ESX[®]、VMware ESXi[™]、VMware vCenter[®]、VMware vCenter Server[™]、および VMware vSphere[®]は、VMware Inc.の登録商標または商標です。

Linux[®]は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Red Hat[®]は、米国およびその他の国における Red Hat Software, Inc.の商標または登録商標です。

目次

インストールの準備	5
アプライアンスの VM とホストの要件.....	5
仮想マシンを展開する場所.....	8
DL ベースのハイパーバイザー環境での展開.....	8
HPE BladeSystem ハイパーバイザー環境での展開.....	9
高可用性の計画.....	9
ハイパーバイザーホストへの HPE OneView のインストール	11
ダウンロードの正当性および整合性の検証.....	11
VMware vSphere ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール.....	12
OVA ファイルのダウンロード.....	12
OVA ファイルの展開.....	12
Hyper-V ホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール.....	13
Hyper-V の zip ファイルのダウンロード.....	13
Hyper-V zip ファイルの展開.....	14
KVM ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール.....	15
qcow2 tar.gz ファイルのダウンロード.....	15
qcow2 tar.gz ファイルの展開.....	15
DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続.....	16
アプライアンスの起動タスクの完了.....	17
認定サービスアクセスの有効化または無効化.....	17
アプライアンスへの初回ログイン.....	18
アプライアンスネットワークの構成.....	19
HPE OneView アプライアンスのネットワークモードについて.....	19
HPE OneView のユーザーインターフェイスを使用したアプライアンスネットワークの構成.....	20
REST API を使用してアプライアンスネットワークを構成する.....	21
次のステップ.....	21
アプライアンスのアップデート	22
アップデートパス.....	22
アップデート時間.....	22
アップデートの前提条件.....	22
仮想アプライアンスのアップデート.....	23
アップデート後のアプライアンスのバックアップ.....	24
VMware 用のアプライアンス仮想マシンハードウェアの互換性をアップグレードする.....	24
Web サイト	26
HPE OneView 製品に関するフィードバック	27
HPE OneView Remote Technician	28

サポートと他のリソース	29
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	29
アップデートへのアクセス.....	29
カスタマーセルフリペア (CSR)	30
リモートサポート (HPE 通報サービス)	30
保証情報.....	30
規定に関する情報.....	30
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	31
アプライアンスの使用について	32
仮想アプライアンスコンソールの使用.....	32
アプライアンスコンソールへのアクセスの制御.....	32
コンソールアクセスの制限.....	33
アプライアンス以外の場所での UI ヘルプの参照の有効化.....	33
インストールの問題のトラブルシューティング	34
アプライアンスがネットワークにアクセスできない.....	34
仮想ディスクのサイズが正しくないため、アプライアンスの更新を続行できない.....	34
VM ホストのパフォーマンスが低下している.....	34
IPv6 アドレスのみを使用するデバイスで、一部のタスクとデバイス監視が機能しない.....	35
アプライアンスが IPv6 モードの場合に、タスクが失敗する.....	35
vSphere VM ホストの時刻を手動で設定すると、VM が再起動しない.....	36
OVA ファイルを展開できない.....	36
ログインできない.....	37

インストールの準備

この章では、新しいアプライアンスで HPE OneView をインストールするための仮想マシン (VM) ホストの要件について説明します。

アプライアンスの VM とホストの要件

HPE OneView は、サポートされるハイパーバイザーホスト上で動作する仮想アプライアンスです。

表 1: サポートされるハイパーバイザーとバージョン

ハイパーバイザー	バージョン
VMware vSphere ESXi	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6.0 ・ 6.0 Update 1 ・ 6.0 Update 3 ・ 6.5 ・ 6.5 Update 1 ・ 6.5 Update 2 ・ 6.5 update 3 ・ 6.7 ・ 6.7 Update 1 ・ 6.7 update 2
<p>注記:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HPE OneView 5.0 をインストールするには、最低でも VM ハードウェアバージョン 11 および ESXi 6 以降が必要です。 ・ ハードウェアタイプが変更されていなければ、ESXi 5.5 シリーズでの HPE OneView 5.0 へのアップグレードは正常に実行されます。 	
Microsoft Hyper-V	<p>Hyper-V は、Hyper-V の役割がインストールされている次の Microsoft Windows プラットフォームでサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Windows Server 2012 (ProLiant Gen8 および ProLiant Gen9 プラットフォーム) ・ Windows Server 2012 R2 (ProLiant Gen10 プラットフォーム) ・ Windows Hyper-V Server 2012 ・ Windows Hyper-V Server 2012 R2 ・ Windows Server 2016 ・ Microsoft Hyper-V Server 2016 ・ Windows Server 2019 長期サービスチャネル (LTSC)
KVM	<ul style="list-style-type: none"> ・ RHEL 6.10 ・ RHEL 7.2 ・ RHEL 7.3 ・ RHEL 7.5 ・ RHEL 7.6 ¹

¹ 第 2 世代インテル Xeon スケーラブル・プロセッサのみサポートします。

注記:

- ・ HPE OneView 5.0 をインストールするには、最低でもハードウェアバージョン 11 および ESXi 6 以降が必要です。
- ・ ハードウェアタイプが変更されていなければ、HPE OneView 5.0 へのアップグレードは正常に実行されます。

次の VMware ドキュメントは、VMware 6.7 の最小システム要件に関するものです。ただし、最小ハードウェア要件は 6.0 であることが必要です。

ESXi/ESX (1003661) をインストールするための最小システム要件

アプライアンスの仮想マシン (VM) は ProLiant G7 クラス CPU またはそれ以降の VM ホスト上で実行する必要があります。ハイパーバイザーホストで、以下の最小限のリソース要件が HPE OneView 仮想アプライアンス用に予約されていることを確認します。

- ・ 2 GHz 以上の仮想 CPU を最低 8 個
- ・ 正確に 24 GB のメモリ
- ・ シックプロビジョニングされた 275 GB のディスク領域

仮想ディスクを手動で拡張して、ファームウェアリポジトリのサイズを増やすことができます。ベストプラクティスは、VMware vSphere ハイパーバイザーまたは Microsoft Hyper-V ハイパーバイザーでのアプライアンスのインストール時に仮想ディスクを拡張することをお勧めします。

- ・ 管理用とデータ用のネットワークを分離することをお勧めします。ただし、デフォルトでは、HPE OneView は管理ネットワークにのみ接続します。

仮想アプライアンスは正確な時間ソースを持っていることが重要です。ネットワークタイムプロトコル (NTP) を使用する仮想アプライアンスの正確な時間を確保するには、次の 2 つのオプションがあります。

ハイパーバイザー上の NTP	ハイパーバイザーホストが NTP を使用するよう構成し、時刻ソースとしてハイパーバイザーホストを使用するように HPE OneView を構成します。
HPE OneView の NTP	HPE OneView が 3 つ以上の NTP サーバーを使用するように構成します。

- ・ ハイパーバイザーホストは最小限のリソース要件を満たしている必要があります。次は、VMware および Microsoft ハイパーバイザーホストの要件に関する詳細情報のリンクです。
 - [ESXi/ESX \(1003661\) をインストールするための最小システム要件](#)、VMware Docs Home
 - [インストールの前提条件を確認する](#) (Windows Server 2016、Microsoft Hyper-V Server 2016、Windows Server 2019、Microsoft Hyper-V Server 2019 に適用)、Microsoft Docs
 - [Hyper-V をインストールして仮想マシンを作成する](#) (Windows Server 2016、Windows Server 2019)、Microsoft Docs
- ・ BIOS 設定の電源管理オプション：
 - パワーレギュレーターをスタティックハイパフォーマンスモードに設定する。
 - 電力プロファイルを最大パフォーマンスに設定する。
 - Hewlett Packard Enterprise は、CPU とメモリの予約/共有を推奨します。

仮想マシンを展開する場所

HPE OneView は、アプライアンス VM およびホストの要件の要件を満たす ProLiant ハードウェアに展開できます。HPE OneView が管理または監視するハードウェアには、特定の制限が適用されます。

HPE OneView は、以下のハードウェア環境のハイパーバイザーに展開できます。

- ・ ラックマウント型の ProLiant DL
- ・ HPE BladeSystem

HPE OneView を使用して HPE OneView が実行されているハイパーバイザーホストを管理する場合は、両方の環境に制限が適用されます。

❗ **重要:** HPE OneView の仮想アプライアンスは、管理機能専用のハイパーバイザー環境に展開し、本番ハイパーバイザー環境とは別にされることをお勧めします。

注記: 管理対象サーバーでアプライアンスをすでに構成している場合は、2 つ以上のハイパーバイザーホストで構成されているクラスターにアプライアンスがインストールされていることを確認してください。そうすることで、フェイルオーバーの場合にアプライアンスを別のクラスターメンバーに移行できます。

DL ベースのハイパーバイザー環境での展開

ベストプラクティスは、高可用性 (HA) のハイパーバイザークラスター構成に展開することです。DL ベースのハイパーバイザーの構成環境を使用して HPE OneView を展開することもできます。

監視対象モードで DL サーバーハイパーバイザーホストを HPE OneView に追加します。誤って仮想アプライアンスの電源をオフにしてしまうことのないように、HPE OneView からハイパーバイザーホストの電源をオフにしないでください。

注記: DL ラックサーバーの単一ハイパーバイザーホストを持つ非 HA 構成では、DL ラックサーバーのハイパーバイザーホストを、管理対象サーバーハードウェアとして HPE OneView に追加する機能はサポートされていません。

HPE OneView の仮想アプライアンスがホスト間で移行できる HA 構成では、ホストを管理対象として追加するという制限は依然として適用されますが、VM の移行を利用して回避することが可能です。この方法は間違いを起こしやすい点に注意してください。

注記: 仮想アプライアンスは、仮想アプライアンスが動作しているハイパーバイザーホストを検出できないため、未サポートの操作に関してユーザーに警告を出すことができません。

ベストプラクティスは、HPE OneView を使用して、クラスター内の DL ハイパーバイザーホストを監視することです (管理することではありません)。監視対象モードでは、HPE OneView を使用してホストの電源をオフにする前に、アプライアンスがそのホスト上で動作していないことを確認します。アプライアンスがホスト上で動作している場合は、HPE OneView アプライアンスを別のクラスターメンバーに移行する必要があります。

DL ハイパーバイザーホストが管理対象モードで HPE OneView に追加された場合、さらに以下の制限が適用されます。

- ・ HPE OneView 仮想アプライアンスが現在実行されているハイパーバイザーホストのサーバープロファイルの適用または編集には、そのサーバーのハードウェアの電源をオフにする必要がありますので、できません。
- ・ サーバープロファイルを適用する前に、クラスター内の別のホストにアプライアンスを移行する必要があります。

HPE OneView のインストール後に HPE Composable Cloud for ProLiant DL オプションを購入した場合は、その製品のインストール手順に従ってください。HPE Composable Cloud for ProLiant DL の詳細については、[HPE Composable Cloud for ProLiant DL Installation Guide](#) を参照してください。

HPE BladeSystem ハイパーバイザー環境での展開

HPE BladeSystem 構成では、管理対象エンクロージャーのサーバープロファイル接続管理に関する留意事項に加え、**DL サーバーと同じ制限**が課されます。

HPE BladeSystem の場合、サーバープロファイルは、ブレードサーバーに対するすべてのネットワーク接続をカプセル化し、エンクロージャー内のインターコネクトモジュールと連携して機能します。

非 HA ハイパーバイザー HPE BladeSystem 環境の単一エンクロージャー上にある ESXi ホストに HPE OneView を展開するときのベストプラクティスは、エンクロージャーの監視であり、管理することではありません。上記と同じ**制限**が引き続き適用されます。現在 HPE OneView アプライアンスが動作している VM ホストの電源をオフにしないでください。

単一エンクロージャー環境、またはエンクロージャーが管理対象モードで HPE OneView に追加されたマルチエンクロージャー環境の場合、エンクロージャーは、非 VC インターコネクトモジュールを含む必要があります。HPE OneView 仮想アプライアンスをサポートするハイパーバイザーホストのストレージおよびネットワーク接続は、これらの非 VC インターコネクトモジュールを使用する必要があります。サーバープロファイルの操作と電源の操作を実行する場合、その操作を実行している特定のホストで HPE OneView 仮想アプライアンスが実行されないようにしてください。

表 2: BladeSystem ハイパーバイザーの構成

構成	監視対象モード	管理対象モード	管理対象モードの制限
HA および非 HA BladeSystem 構成をサポート	サポート	サポート	<ul style="list-style-type: none"> エンクロージャーには、非 VC インターコネクトモジュールを搭載する必要があります。HPE OneView が Virtual Connect インターコネクトモジュールを使用してエンクロージャーを管理するためには、HPE OneView がホストされているハイパーバイザーホストの接続を非 VC インターコネクトモジュールに制限する必要があります。
HA 構成が優先	推奨（ベストプラクティス）	非推奨、 制限事項 を参照	<ul style="list-style-type: none"> HPE OneView 論理インターコネクトグループに非 VC モジュールを含めないでください。 HPE OneView ハイパーバイザーホストは、非 VC（非管理）インターコネクトモジュールを使用するネットワークストレージソースにのみ接続する必要があります。 HPE OneView ハイパーバイザーホストとして動作しているブレードにサーバープロファイルを適用しないでください。

高可用性の計画

HPE OneView を高可用性（HA）構成で使用するには、ハイパーバイザーのドキュメントを参照し、特定の要件を確認してください。

アプライアンスの可用性を維持するために、HPE OneView には構成設定および管理データをバックアップファイルに保存するバックアップ機能が用意されています。Hewlett Packard Enterprise は、できれば

毎日、および他のキーとなる構成の変更後、ご使用のアプリアンスのバックアップを取ることをお勧めします。

詳細は、オンラインヘルプのアプリアンスのバックアップについておよびアプリアンスをバックアップするためのベストプラクティスのセクションを参照してください。

ハイパーバイザーホストへの HPE OneView のインストール

HPE OneView は、次の形式で配布されます。

ハイパーバイザーホスト	ファイル形式
VMware vSphere ハイパーバイザー	<p>オープン仮想化フォーマット (OVF) パッケージが含まれるオープン仮想アプライアンス (OVA) ファイルとしてパッケージ化されたものです。</p> <p>OVA の展開には、以下のいずれかを用いることができます。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ホストシステムにインストールされた VMware vSphere クライアント (Microsoft Windows アプリケーション) または vSphere Web クライアント・ コマンドラインインターフェイス (CLI)・ REST API <p>このガイドでは、ホストシステムにインストールされた VMware vSphere クライアント (Microsoft Windows アプリケーション) または vSphere Web クライアントを使用して OVA を展開する方法を説明します。このガイドを利用した OVA ファイルの展開には、以下が必要となります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. ホストシステムにインストールされた VMware vSphere クライアント (Microsoft Windows アプリケーション) または vSphere Web クライアント。2. HPE OneView をインストールするための VMware vCenter サーバーへのアクセス。
Microsoft Hyper-V ハイパーバイザー	<p>イメージ zip ファイルとしてパッケージ化されたもの。</p> <p>この.zip ファイルを使用して HPE OneView をインストールするには、Windows Server に Hyper-V の役割がインストールされている必要があります。</p>
Red Hat Linux KVM ハイパーバイザー	<p>tar.gz ファイルとしてパッケージ化されたもの。</p>

ダウンロードの正当性および整合性の検証

Software Depot の Web サイト (<https://www.hpe.com/support/softwaredepot>) から HPE OneView アプライアンスファイルをダウンロードする際、お使いのブラウザの HTTPS 接続は信頼されているセキュリティ証明書を使用するため、HPE の仮想アプライアンスイメージは信頼できます。

さらに、無償の GNU プライバシーガード (GPG) ツールを使用して、ファイルの正当性および整合性を検証できます。

- `gpg --verify <filename>.ova.sig <filename>.ova`
- `gpg --verify <filename>.zip.sig <filename>.zip`
- `gpg --verify <filename>.gz.sig <filename>.gz`

注記: このデジタル署名の確認手順は、アップグレードのインストールには必要ありません。アップグレードファイル (*.bin ファイル) がすでにデジタル署名されており、デジタル署名はアップグレード手順の間に自動的に検証されます。

検証する前に、最新バージョンのキー zip ファイルを必ずダウンロードしてください。検証手順について詳しくは、Web ページ (<https://www.hpe.com/downloads/codeverify>) を参照してください。

VMware vSphere ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール

OVA ファイルのダウンロード

物理メディアに OVA ファイルがない場合、Software Depot (<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>) から OVA ファイルをダウンロードします。

OVA ファイルのサイズは約 2 GB です。ダウンロード時間はネットワーク接続によって異なります。Software Depot が提供するダウンロードマネージャーなど、ダウンロードの再開をサポートするダウンロードマネージャーを使用することをお勧めします。

手順

1. ハイパーバイザークライアントが実行されているシステムでブラウザを開きます。
2. Software Depot (<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>) にアクセスし、**Converged Infrastructure Management Software > OneView Management Software > HPE OneView** の順に選択します。

注記: Software Depot のアカウントがある場合は、ファイルをダウンロードする前にログインする必要があります。まだ登録していない場合は、登録を求めるメッセージが表示されます。

3. OVA ファイルをローカルディレクトリにダウンロードします。
4. vSphere クライアントが実行されているシステムにローカルディレクトリが配置されているか、Web アドレスを使用してローカルディレクトリにアクセスできる必要があります。

注記: OVA ファイルは電子的に署名されています。<http://www.hpe.com/downloads/codeverify> の説明に従って、ダウンロードの正当性および整合性を検証することができます。詳細は、[ダウンロードの正当性および整合性の検証](#)(11 ページ)を参照してください。

OVA ファイルの展開

手順

1. VMware vSphere クライアントを起動し、vCenter にログインします。
2. メニューから、**ファイル > OVF テンプレートのデプロイ**を選択し、**OVF テンプレートのデプロイウィザード**を起動します。
 - a. ソース画面で、以下のいずれかの情報を指定します。

- ・ OVA ファイルへのパス
 - ・ OVA ファイルの Web アドレス (URL) (Web サーバーでこのファイルにアクセスできるようにしている場合)
- b. OVF テンプレートの詳細画面の情報を確認します。
 - c. 名前と場所画面で、インベントリフォルダー内で一意である、展開されたテンプレートの名前と場所を入力し、インベントリ場所を選択します。
 - d. ホスト/クラスタ画面で、展開されたテンプレートを実行するホストまたはクラスタを選択します。
 - e. ストレージ画面で、VM ファイルの保存先を選択します。
 - f. ディスクのフォーマット画面で、仮想ディスクのシックプロビジョニングを選択します。
また、**Eager Zeroed** を選択されることをお勧めします。

❗ **重要:** シックプロビジョニングが必須なのは、シンプロビジョニングを選択すると、VM ホストでディスク領域が不足した場合にアプライアンス VM が一時停止されるためです。ファームウェアのアップグレード、プロファイルの適用、アプライアンスアップデートのバックアップの実行など、何らかの処理を実行している間にこの状態が発生した場合、診断が困難な障害が発生する可能性があり、解決するのにサービスコールが必要になる場合があります。

- g. ネットワークのマッピング画面で、管理 LAN に接続できるネットワークを選択します。
- h. 終了準備の完了画面で、選択したオプションを確認します。必要に応じて、戻るボタンを使用して変更を加えます。終了をクリックし、テンプレートを完了して、展開を開始します。

展開が完了すると、VM を使用できます。

3. ホストに NTP を構成するか、アプライアンスが NTP サーバーを参照するように構成します。
4. 概要タブで、**仮想マシンの電源を入れる**をクリックして、**コンソールタブ**をクリックし、アプライアンスの開始を監視します。

アプライアンスの電源が入れられてからブラウザ接続を受け入れるための準備ができるまで、ハードウェアによっては約 10 分かかります。この間、vSphere 仮想コンソールには、「Please wait while the appliance starts」というメッセージが表示されます。起動が完了すると、仮想コンソールに **HPE OneView EULA** 画面が表示されます。

アプライアンスへの接続方法について詳しくは、[DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続](#)(16 ページ)を参照してください。

Hyper-V ホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール

Hyper-V の zip ファイルのダウンロード

物理メディアに Microsoft Hyper-V zip ファイルがない場合は、Software Depot から Hyper-V zip ファイルをダウンロードします。

zip ファイルは約 1.7 GB です。ダウンロード時間はネットワーク接続によって異なります。Software Depot が提供するダウンロードマネージャーなど、ダウンロードの再開をサポートするダウンロードマネージャーを使用することをお勧めします。

手順

1. ハイパーバイザークライアントが実行されているシステムでブラウザを開きます。
2. <https://www.hpe.com/support/softwaredepot> の Software Depot にアクセスし、**Converged Infrastructure Management Software > OneView Management Software > HPE OneView** の順に選択します。

注記: Software Depot のアカウントがある場合は、ファイルをダウンロードする前にログインする必要があります。まだ登録していない場合は、登録を求めるメッセージが表示されます。

3. zip ファイルをローカルディレクトリにダウンロードします。

注記: zip ファイルは電子的に署名されています。正当性と整合性は、<https://www.hpe.com/downloads/codeverify> にある手順に従いお客様で検証いただくことも可能です。

Hyper-V zip ファイルの展開

手順

1. Hyper-V ホストからアクセスできる場所に Microsoft Hyper-V イメージの zip ファイル (HPEOneView_<バージョン番号>.zip) を解凍します。
2. Hyper-V マネージャーを起動します。Hyper-V ホストを右クリックし、**仮想マシンのインポート**を選択します。
3. 仮想マシンのインポートウィザードで、Hyper-V イメージ zip ファイルの解凍場所に移動し、**Snapshots**、**Virtual Hard Disks**、および **Virtual Machines** という名前のディレクトリを見つけてから、それらを含んでいる親ディレクトリを選択します。
4. ウィザードの手順を進めて、アプライアンス仮想マシンをインポートします。

❗ **重要: 仮想マシンをコピーする (新しい一意な ID を作成する) オプションを必ず選択してください。**

5. アプライアンス VM が **ホスト要件** を満たしていることを確認します。設定を編集する場合は、アプライアンス VM を右クリックし、**設定**を選択します。
6. **シックプロビジョニング**を使用します。VM のインポート後は、Hyper-V で固定サイズのディスクを使用します。
 - a. **設定**を選択し、**仮想ハードディスク**を選択します。
 - b. 現在のディスクを編集し、**変換**を選択し、**容量固定**を選択します。
 - c. VM ハードディスクのサイズを、作成した新しい固定サイズのディスクに変更します。

❗ **重要: シックプロビジョニングが必須なのは、シンプロビジョニングを選択すると、VM ホストでディスク領域が不足した場合にアプライアンス VM が一時停止されるためです。ファームウェアのアップグレード、プロファイルの適用、アプライアンスアップデートのバックアップの実行など、何らかの処理を実行している間にこの状態が発生した場合、診断が困難な障害が発生する可能性があります。解決するのにサービスコールが必要になる場合があります。**

7. ネットワークアダプターを構成します。ハイパーバイザーの UI を使用して、VM ネットワークアダプターを設定します。

- ・ アプライアンスは、管理 LAN 上で 1 つの NIC をサポートします。
- ・ 通常、ネットワーク構成に応じて、ネットワークアダプターを 1 つ以上の仮想スイッチに接続します。

❗ **重要:** VLAN と VLAN 識別子を使用しない場合には、VLAN ID ボックスのチェックを必ず外してください。

8. 仮想アプライアンスの電源を入れる前に、VM ホストシステムの日時が正しく設定されていることを確認します。VM ゲストは VM ホストシステムの時刻と同期するため、VM ホストシステムでは、NTP などのツールを使用して正確な時刻を維持してください。VM ホストの時間が適切に設定されていない場合は、アプライアンスの起動時に以下のメッセージが表示されます。The time and date on your hypervisor appears to be incorrect. Please power off your appliance, correct the time and date on your hypervisor, and power on your appliance. この問題が発生した場合は、メッセージの指示に従ってください。
9. 仮想マシンの電源を初めてオンにします。Hyper-V Manager で、アプライアンス VM を右クリックし、電源を入れます。
コンソールにアプライアンスのライセンスおよびサポートの画面が表示されます。これで、初めてアプライアンスにログインできます。

KVM ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール

qcow2 tar.gz ファイルのダウンロード

tar.gz ファイルは約 1.8 GB です。ダウンロード時間はネットワーク接続によって異なります。HPE Software Depot が提供するダウンロードマネージャーなど、ダウンロードの再開をサポートするダウンロードマネージャーを使用することをお勧めします。

手順

1. Web ブラウザーを開きます。
2. HPE Software Depot にアクセスして、**Converged Infrastructure Management Software > OneView Management Software > HPE OneView** の順に選択します。
HPE Software Depot のアカウントがある場合、ファイルをダウンロードする前にログインする必要があります。登録されていない場合、登録を求めるメッセージが表示されます。
3. tar.gz ファイルをローカルディレクトリにダウンロードします。

注記: zip ファイルは電子的に署名されています。<https://www.hpe.com/downloads/codeverify> の手順に従って、正当性と完全性を検証できます。

qcow2 tar.gz ファイルの展開

手順

1. 次のコマンドを使用して、qcow2 イメージ tar.gz ファイルを Linux ホストからアクセスできる場所に抽出します。


```
tar -xvzf filename
```

2. Virtual Machine Manager またはその他の任意の仮想マシン管理ツールを開きます。
3. Virtual Machine Manager のメニューから **ファイル > 新しい仮想マシン** を選択し、新しい VM ウィザードを起動します。
4. 新しい VM ウィザードで次の手順を実行します。
 - a. VM の名前を指定します。
 - b. オペレーティングシステムをインストールするために、**既存のディスクイメージをインポート** オプションを選択し、**進む** をクリックします。
 - c. お使いのローカルマシンの qcow2 ファイルの場所にアクセスします。**OS タイプ** には **Linux** を選択し、**バージョン** には **Red Hat Enterprise Linux 7** を選択します。
バージョンリストに **Red Hat Enterprise Linux 7** がない場合は、**OS タイプ** と **バージョン** に汎用を選択します。**進む** をクリックします。
 - d. **メモリ (RAM)** を **24000 MB (24 GB)**、**CPU** を **8** に設定し、**進む** をクリックします。
 - e. VM のストレージを有効にし、ディスクイメージのサイズを **275 GB** 以上に設定して、**今すぐディスク全体を割り当てる** を選択します。**進む** をクリックします。

❗ **重要:** ここで、必ず、ディスク全体を割り当てます。これを怠ると、VM ホストでディスク領域が不足した場合にアプライアンス VM が一時停止してしまいます。ファームウェアのアップグレード、プロファイルの適用、アプライアンスアップデートのバックアップの実行など、何らかの処理を実行している間にこの状態が発生した場合、診断が困難な障害が発生する可能性があります。解決するのにサービスコールが必要になる場合があります。

- f. ネットワークで、管理 LAN に接続できるネットワークデバイスを選択し、**入力モード** として **ブリッジ** を選択します。
- g. **Disk bus** フィールドで **IDE** が選択されていることを確認します。
- h. **完了** をクリックします。

仮想マシンコンソールから HPE OneView アプライアンス (VM) が起動するようになります。

DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続

アプライアンスには静的 IP アドレスが必要です。インストールの際に初めてアプライアンスに接続する場合にのみ、DHCP が使用されます。

注記: ネットワークの問題があり、アプライアンスに接続できない場合は、ハイパーバイザーの仮想コンソールを使用してアプライアンスにログオンし、ネットワーク設定を確認または変更します。

アプライアンスに初めて接続するときは、ホスト環境がどのように構成されているかに応じて、以下のどちらかの方法を使用します。

DHCP を使用

- ・ VMware vSphere
vSphere 仮想コンソールの **サマリ** タブを使用して、アプライアンスの初期 IP アドレスを確認します。次に、ローカルコンピュータで実行されているブラウザで、アプライアンスの IP アドレスを使用してアプライアンスに接続します。
- ・ Microsoft Hyper-V

管理 LAN 上で DHCP とダイナミック DNS を使用できる場合、アプライアンスは起動時に `ci-<MAC アドレス>` の形式で DNS 名を登録します。

アプライアンスのイーサネット MAC アドレスについては、Hyper-V Manager の **ネットワーク** タブを使用して確認できます。ブラウザーのアドレスバーで名前を使用します。例：`https://ci-<MAC アドレス>.example.com`

ダイナミック DNS がない場合は、仮想コンソールを使用してアプライアンスに接続します。Hyper-V Manager で **接続** を選択し、アプライアンスコンソールに接続して、初期セットアップ手順を実行します。

- ・ KVM

`virt-manager` と入力して、Virtual Machine Manager にアクセスします。VM を選択し、仮想コンソールのブラウザーを使用して、仮想コンソールでアプライアンスに接続します。

DHCP を使用しない

- ・ VMware vSphere

仮想コンソールで実行されているブラウザーで、vSphere 仮想コンソールを使用してアプライアンスに接続します。**Ctrl + Alt** キーを押して、仮想コンソールを終了します。

- ・ Microsoft Hyper-V

Hyper-V Manager で **接続** を選択し、アプライアンスコンソールに接続して、初期セットアップ手順を実行します。

- ・ KVM

`virt-manager` と入力して、Virtual Machine Manager にアクセスします。VM を選択し、仮想コンソールのブラウザーを使用して、仮想コンソールでアプライアンスに接続します。

アプライアンスの起動タスクの完了

手順

1. まだアプライアンスに接続していない場合は、**DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続**(16 ページ)で説明されているいずれかの方法を使用してアプライアンスに接続します。

2. **HPE OneView EULA** 画面で、EULA を確認し、**同意する** をクリックして続行します。

注記: 同意しない をクリックすると、先に進むことはできません。

3. **HPE OneView サポート** 画面で、アプライアンスへのサービスアクセス認証を**有効**にするか、**無効**にするかを決定します。

4. **OK** をクリックして次に進みます。

詳細情報

認定サービスアクセスの有効化または無効化(17 ページ)

認定サービスアクセスの有効化または無効化

アプライアンスを最初に起動したときに、現場での認定テクニカルサポートによるアクセスを有効または無効にすることができます。デフォルトでは、現場の認定テクニカルサポートは、アプライアンスコンソールを介してシステムにアクセスし、報告を受けた問題を診断できます。

サポートアクセスは root レベルのシェルです。これにより、現場の認定テクニカルサポートは、アプライアンス上の問題をデバッグしたり、パスワードリセット用のチャレンジ/レスポンス方式に似た方法を使用してワンタイムパスワードを取得したりできます。

インフラストラクチャ管理者は、アプライアンスの初期設定後はいつでも、以下の手順で UI からサービスアクセスを有効化または無効化できます。

前提条件

権限：インフラストラクチャ管理者。

手順

1. メインメニューから**設定**を選択します。
2. セキュリティパネルで**編集**アイコンをクリックします。
セキュリティの**編集**ウィンドウが開きます。
3. サービスコンソールアクセスの適切な設定を選択します。
 - a. **無効**
コンソールへのアクセスを禁止します。
 - b. **有効**
コンソールへのアクセスを許可します。
4. **OK** をクリックします。

また、`/rest/appliance/settings` REST API を使用してサービスアクセスを有効または無効にできます。

注記: Hewlett Packard Enterprise では、アクセスを有効にすることをお勧めします。無効にすると、認定技術サポート担当者がアプライアンスにアクセスして問題のトラブルシューティングを行うことができなくなります。

アプライアンスへの初回ログイン

次の手順では、デフォルトの認証情報を使用してアプライアンスにログインします。通常、この作業は、VM のコンソールウィンドウで実行される、特別に制限されたブラウザを使用して行われます。

注記: ファクトリーエクスプレスプロセスのフォームで指定したユーザー提供のパスワードを使用することを選択した場合は、デフォルトの **administrator** / **admin** ログインパスワードは失敗します。この場合は、フォームで指定したユーザー名とパスワードを使用してください。

手順

1. アプライアンスに初めてログインする場合、以下のデフォルトの認証情報を使用します。
ユーザー名：**Administrator**
パスワード：**admin**

デフォルトの認証情報を使用してログインできない場合は、[ログインできない\(37 ページ\)](#)を参照してください。
2. 直ちに Administrator の認証情報の変更が要求されます。デフォルトパスワードを、8 文字以上の任意のパスワードに変更します。

アプライアンスネットワークの構成

プロセスの次の手順は、ユーザーインターフェイスを使用してアプライアンスネットワークを構成することです。

VM アプライアンスでは、以下の方法で IP アドレスを構成できます。

- ・ 静的 IP アドレスを使用して手動で割り当てる。
- ・ 静的予約付き DHCP を使用する。これにより、アプライアンスが常に同じ IP アドレスから発行されるようにする。

注記: Microsoft Hyper-V の VM では、仮想コンソールからアプライアンスネットワークを構成する必要がありますが、これは、Linux の統合サービスでは、管理ネットワークで DHCP が利用できる場合仮想マシンの IP アドレスレポートを行わないためです。

HPE OneView アプライアンスのネットワークモードについて

HPE OneView アプライアンスでは、IPv4 および IPv6 の 2 つの IP アドレッシングモードをサポートしています。ネットワーク構成は、HPE OneView アプライアンスの初期セットアップ時にのみ設定でき、IPv4 が有効かどうかによって決定されます。IPv4 が有効である場合、IPv6 アドレスを提供しても、アプライアンスは IPv4 モードになります。IPv4 が無効である場合、アプライアンスが IPv6 モードで、IPv6 アドレスを使用してのみ通信できることを示します。

・ IPv4 (デフォルト)

このネットワーク構成では、HPE OneView アプライアンスおよびすべての管理対象デバイスに IPv4 アドレスを割り当てる必要があります。オプションで IPv6 アドレスを割り当てることもできます。IPv4 モードでは、HPE OneView の全機能がサポートされています。

HPE OneView アプライアンスと管理対象デバイス間の通信では、IPv4 が使用されます。

・ IPv6

このネットワーク構成では、HPE OneView アプライアンスに IPv6 アドレスを割り当て、IPv4 を無効にする必要があります。すべての管理対象デバイス用は、IPv6 アドレスで構成する必要があり、オプションで、IPv4 アドレスで構成することもできます。このモードでは、HPE OneView の機能が一部サポートされていない場合があります。次の **IPv6 ネットワークの制限** を参照してください。

HPE OneView アプライアンスと管理対象デバイス間の通信では、IPv6 が使用されます。

❗ **重要:** アプライアンスのネットワーキングのタイプは、アプライアンスの初期セットアップ手順のネットワーク構成ステップでのみ設定できます。IPv4 が有効の場合、アプライアンスは IPv4 モードになります。IPv4 が無効の場合、アプライアンスは IPv6 モードになります。アプライアンスを工場出荷時の状態に完全にリセットすると、アドレスモードを変更できます。たとえば、初期セットアップ中に IPv4 を有効にした場合、アプライアンスの工場出荷時設定を完全にリセットしないと、ネットワークタイプを再構成できません。このような制限により、IPv4 モードで実行されているアプライアンスを、アップグレード後であっても IPv6 モードに切り替えることはできません。

IPv6 ネットワークの制限

- ・ IPv6 ネットワークモードがサポートされるのは、管理対象となるラックマウント型サーバーに限定されます。HPE c7000 エンクロージャーおよびブレードは、アプライアンスでエンクロージャーの追加オプションが有効になっていても、サポートされません。
- ・ HPE OneView にサーバーハードウェアを追加する場合は、IPv6 アドレスを範囲指定することはできません。

- ・ HPE Nimble ストレージシステムと HPE 3PAR StoreVirtual ストレージシステムでは、IPv6 はサポートされていません。
- ・ Brocade Fabric OS (FOS) スイッチ SAN マネージャーおよび Brocade Network Advisor (BNA) SAN マネージャーはサポートされていません。
- ・ HPE Virtual Connect の移行は、IPv6 では機能しません。
- ・ バックアップは、同じネットワークモードを使用してアプライアンスにのみリストアできます。
- ・ アプライアンスは、IPv4 ネットワーク上のデバイスとの間の送受信ができません。
- ・ DL サーバー用 HPE OneView リモートサポートは、次の制限付きでサポートされます。
 - 最小 iLO ファームウェア :
 - iLO 4 - v2.60
 - iLO 5 - v1.30
 - HPE OneView は、IPv4 のみをサポートするリモートサポートバックエンドと通信するために、IPv6 から IPv4 に変換するプロキシサーバーで構成する必要があります。

詳細情報

IPv6 アドレスのみを使用するデバイスで、一部のタスクとデバイス監視が機能しない(35 ページ)
アプライアンスが IPv6 モードの場合に、タスクが失敗する(35 ページ)

HPE OneView のユーザーインターフェイスを使用したアプライアンスネットワークの構成

最初に Administrator としてログインした後、アプライアンスネットワーク画面が表示されます。この画面のほとんどの情報は自動的に設定されます。ただし、以下の情報を指定する必要があります。

・ アプライアンスホスト名

アプライアンスホスト名のフィールドにはデフォルトの名前が表示されますが、このデフォルト名を任意のホスト名に変更することができます。

注記: DNS (ドメインネームサービス) サーバーを直接的または間接的に指定する場合、完全修飾ホスト名を指定する必要があります。

・ IPv4 アドレス

アドレス割当てについて適切な設定を選択します。

- なし - IPv6 のネットワークモードを選択します。
- マニュアル - IP アドレスを手動で割り当てます。
- DHCP - DHCP サーバーで予約済みの DHCP を使用します。該当しない場合は、定義済みの静的 IP アドレスを使用します。詳しくは、DHCP 環境および非 DHCP 環境でのアプライアンスへの接続 (16 ページ)を参照してください。

・ IPv6 アドレス

アドレス割当てについて適切な設定を選択します。

- なし - IPv6 ネットワークモードを無効にします。
- マニュアル - IP アドレスを手動で割り当てます。
- DHCPv6 - 予約済みの DHCP のみを使用します。該当しない場合は、静的 IP アドレスを使用します。

・ DNS サーバーアドレス

DNS を使用する場合、ここで DNS サーバーのアドレスを入力します。

IP アドレスを変更すると、HPE OneView によってセキュリティ証明書が再生成され、ユーザーはログイン画面に自動的にリダイレクトされます。

アプライアンスネットワーク設定の構成で使用可能なオプションについては、[?](#) をクリックします。

REST API を使用してアプライアンスネットワークを構成する

アプライアンスネットワークを初めて構成するためのすべてのネットワーク設定が含まれる `/rest/appliance/network-interfaces` API を使用して、REST API の POST 操作を使用できます。

詳細については、[?](#) をクリックして HPE OneView API リファレンスのリンクにアクセスしてください。このマニュアルは <http://www.hpe.com/info/oneview/docs> から入手できます。

次のステップ

インストールとアプライアンスネットワークを構成が完了したら、次の手順は、データセンターのリソースをアプライアンス管理の下に置くことです。

詳しいガイド付きセットアップウィザードは、HPE OneView UI で使用可能です。ガイド付きセットアップウィザードでは、構成を進めていくときにやり直しを最小限に抑えられるように、アクションのリストが表示されます。このリスト内の項目は、UI の画面に直接リンクされています。

UI には、HPE OneView で使用される領域および用語について説明したチュートリアルも用意されています。オンラインヘルプで補足情報を参照することができます。

アプライアンスのアップデート

この項では、HPE OneView の 1 つのバージョンから別のバージョンへアプライアンスをアップデートする方法について説明します。

アップデートパス

HPE OneView は、バージョン 4.10.01 以降から 5.0 に直接アップデートすることができます。

HPE OneView の以前のバージョンやアップグレードパスについて詳しくは、[HPE OneView ライフサイクルページ](#)を参照してください。

アップデート時間

アップデート時間の詳細情報については、[HPE OneView リリースノート](#)を参照してください。

アップデートの前提条件

HPE OneView をアップグレードする前に、次の点を確認します。

- ・ VM ホストとそのリソースが、**最小要件**を満たしていること。
- ・ **ⓘ 重要:** アプライアンスの電源がオフにされ、アプライアンス設定で CPU コア数が 8 に、メモリ容量が 24 GB に増やされていることを確認してください。
- ・ インフラストラクチャ管理者権限を持つユーザーとしてアプライアンスにログインしていること。
- ・ 他のユーザーがアプライアンスにログインしていないこと (HPE OneView の REST API への外部ツールからのアクセスを含む)、またアップデート中に誰もログインしないこと。
- ・ アプライアンスのユーザーインターフェイスまたは REST API を使用して、アプライアンスをバックアップしたこと。
 - **アプライアンスのユーザーインターフェイス :**
 - 手動バックアップ
 1. **設定 > バックアップ > アクション > バックアップの作成**の順に選択します。
 2. **設定 > バックアップ > アクション > バックアップのダウンロード**の順に選択します。
 - リモートバックアップ
 1. **設定 > リモートバックアップの場所 > バックアップ設定の編集**の順に選択します。
 2. **リモートバックアップの場所の有効化**を選択し、必要な情報を入力します。[OK]をクリックします。
 3. **リモートバックアップの場所にバックアップが保存されていることを確認**します。
 - **REST API :**
 - 手動バックアップ
 1. `/rest/backups`
 2. `/rest/backups/archive/{id}`
 - リモートバックアップ

1. /rest/backups/config
2. /rest/backups/remotearchive/{id}

サポートが必要な場合は、HPE OneView のオンラインヘルプトピックアプライアンスの手動バックアップまたは自動リモートバックアップの構成を参照してください。

- ・ HPE OneView で管理されるすべての iPDU 電力供給デバイスを、2.0.22.12 の最小のファームウェアバージョンにアップグレードします。HPE では、最新のファームウェアバージョンにアップグレードすることを推奨します。

注記: HPE Composable Cloud for ProLiant DL のアプライアンスを更新する場合、**HPE Composable Cloud for ProLiant DL Installation Guide** のアップグレード手順に従ってください。

詳細情報

アプライアンスの VM とホストの要件

仮想アプライアンスのアップデート

手順

1. アプライアンスのバックアップを含め、**前提条件**を満たしていることを確認します。
2. ハイパーバイザーで、アプライアンス仮想ディスクのサイズを確認します。ディスクサイズが 275 GB でない場合、ハイパーバイザーに対して適切なアクションを実行します。
 - a. VMware vSphere クライアントで仮想マシンを選択、右クリックして、設定の編集を選択します。次に、仮想ディスクのサイズを 275 GB に増加します。
 - b. Microsoft Hyper-V クライアントで、仮想ハードディスクの編集ウィザードを選択し、仮想ディスクのサイズを 275 GB に増加します。
3. 仮想マシンアプライアンス用の HPE OneView 5.x update image <ファイル名>.bin を、**HPE Software Depot** からローカルコンピューターにダウンロードします。

❗ 重要: アプライアンスのプラットフォームと互換性のあるイメージファイルを選択します。

4. アプライアンスにログインし、**設定 > アプライアンス > アクション > アプライアンスのアップデート**の順に選択します。
5. ダウンロードしたイメージファイルをアプライアンスの UI 画面にドラッグアンドドロップするか、ブラウズすることによって、この UI 画面からイメージファイルを利用できるようにします。

注記: サポートが必要な場合は、HPE OneView のオンラインヘルプトピックアプライアンスのアップデートを参照してください。

6. **アップロードおよびインストール**をクリックします。
7. ファイルのアップロードと検証が完了したらライセンス契約に同意し、アップデートをクリックしてアップデートプロセスを開始します。

注記:

- ・ 4.xバージョンからの更新時、更新の進捗状況が約30分間、30%で停止したように見えることがあります。
- ・ 大規模な構成では、**一時的に利用不可画面**が表示される場合があります。
- ・ 更新中にアプライアンスを手動で再起動したりシャットダウンしたりしないでください。更新の中断は回復不能で、アプライアンスデータをバックアップファイルから復元しなければならなくなります。

詳細情報

アップデートの前提条件(22 ページ)

アップデート後のアプライアンスのバックアップ

アプライアンスをアップグレードした後、忘れずに新しいバックアップファイルを作成してください。アプライアンスを復元する必要がある場合は、同じバージョンのアプライアンスで作成されたバックアップファイルからのみ実行できます。

VMware 用のアプライアンス仮想マシンハードウェアの互換性をアップグレードする

HPE OneView には、Spectre および Meltdown に対する脆弱性を緩和するための適切なアップデートが組み込まれています。

HPE OneView 自体には Spectre/Meltdown に対する脆弱性はありませんが、完璧を期すため、セキュリティアップデートが HPE OneView に組み込まれています。

VMware 環境では、仮想マシンのハードウェアバージョンによって、仮想マシンで使用できる仮想ハードウェア機能が決まります。VMware ユーザーインターフェイスではこれを、VM の"VM バージョン"または"互換性"と呼んでいます。VMware では、仮想マシンのハードウェアバージョンが 11 より新しいものであることが必須です。これにより、該当するすべての Spectre/Meltdown ハイパーバイザーホストハードウェア修正が正しく仮想化され、ゲスト VM がこれを使用できるようになります。HPE OneView 仮想アプライアンスの新しいインストールでは、仮想ハードウェアバージョン 11 をサポートしています。

アップグレードインストールでは、ハードウェアバージョン 11 より古い場合、HPE OneView 仮想アプライアンスについてハードウェアバージョンの 1 回限りのアップデートを管理者が手動で実行する必要があります。

次の例では、VMware vSphere Client を使用して更新を実行します。

手順

1. 現在の HPE OneView 仮想アプライアンスのハードウェアバージョンを確認します。バージョン 11 より古い場合は、以下の手順に進みます。
2. 仮想アプライアンスを安全にシャットダウンします。
3. 仮想アプライアンスのハードウェアバージョンを更新するには、仮想マシンを右クリックし、メニューオプションを選択して仮想ハードウェアをアップグレードします。インターフェイスは、VMware vSphere Client のバージョンとタイプによってわずかに異なります。
 - a. ローカルにインストールされている VMware vSphere Client の場合、オプションは**仮想ハードウェアのアップグレード**です。
 - b. VMware vSphere Web Client の場合は、**互換性 > 仮想マシンの互換性のアップグレード**の順に選択します。

注記: 仮想ハードウェアをアップグレードまたは仮想マシンの互換性のアップグレードするオプションは、仮想マシン上の仮想ハードウェアがサポートされている最新バージョンではない場合にのみ表示されます。

- c. VMware ESXi 6.0 以降の互換性オプションを選択します。ハードウェアバージョン 11 に対応しているのは VMware ESXi 6.0 です。
- d. 仮想ハードウェアのアップグレードを継続するには、**はい**をクリックします。
- e. HPE OneView 仮想アプライアンスの電源をオンにします。

VMware vSphere ハイパーバイザーホストへの HPE OneView 仮想アプライアンスのインストール

HPE OneView 5.0 をインストールまたは再イメージングする場合、ESXi は 6.0 以降である必要があります。そうでない場合、次のエラーが表示されます。

宛先ホストには、VM がアップグレードされる予定のハードウェアバージョンとの互換性がありません。

Web サイト

全般的な Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library

<http://www.hpe.com/info/EIL>

HPE OneView ドキュメント

www.hpe.com/info/oneview/docs

サブスクリプションサービス/サポートのアラート

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

HPE Insight リモートサポート

www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs

Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリクス

<http://www.hpe.com/storage/spock>

ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート

<http://www.hpe.com/storage/whitepapers>

上記以外の全般的サポートの Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

製品の Web サイト

HPE Virtual Connect ユーザーガイドとコマンドラインリファレンス

www.hpe.com/info/virtualconnect/docs

HPE 3PAR StoreServ と HPE StoreVirtual

<http://www.hpe.com/info/storage>

HPE Integrated Lights-Out

<http://www.hpe.com/jp/servers/ilo>

HPE BladeSystem エンクロージャー

<http://www.hpe.com/info/blades-ja>

HPE ProLiant サーバーハードウェア

一般的な情報 : <http://www.hpe.com/info/servers-ja>

BL シリーズサーバーブレード : <http://www.hpe.com/info/blades-ja>

DL シリーズラックマウント型サーバー : <https://www.hpe.com/jp/ja/servers/proliant-dl-servers.html>

HPE Integrity Superdome X

<http://www.hpe.com/info/superdome>

HPE Superdome Flex サーバー

<http://www.hpe.com/info/superdome>

HPE Composable Cloud for ProLiant DL

www.hpe.com/info/composablecloud-docs

HPE OneView 製品に関するフィードバック

Hewlett Packard Enterprise へのフィードバックの送信

Hewlett Packard Enterprise に、Hewlett Packard Enterprise 製品についてのフィードバックをお寄せください。Hewlett Packard Enterprise に直接フィードバックを送信するには、<https://www.hpe.com/jp/ja/contact-hpe.html> にアクセスして、**Submit Feedback** をクリックします。

Gartner Peer Insights へのフィードバックの送信

Hewlett Packard Enterprise は、率直なフィードバックを送信する別のオプションとして、いくつかの第三者のサイトと提携しています。最初の提携は、情報テクノロジーの有益な情報を提供する主要な研究およびコンサルティング会社である Gartner です。Hewlett Packard Enterprise は、HPE OneView をレビューし、15 分以内にフィードバックを送信できる Gartner Peer Insights の調査をセットアップするために Gartner と提携しています。HPE OneView のフィードバックをご提供いただける場合は、リンク <http://gtnr.it/2jgx9Ju> にアクセスしてください。

HPE OneView Remote Technician

HPE OneView Remote Technician による問題の解決の迅速化。HPE OneView Remote Technician を使用すると、問題のトラブルシューティングおよび解決のサポートが迅速かつ容易になります。招待により、認証された HPE サポート技術者が、問題のトラブルシューティングと診断に安全な TLS 接続を通じて HPE OneView アプライアンスにアクセスします。

- ・ FTP サイトを必要としないログの直接ダウンロードなど、信頼された HPE サポート技術者が問題を診断する際に現場にいる必要がありません。
- ・ HPE OneView Remote Technician は、追加のアプリケーションなしで HPE OneView 4.1 以降に組み込まれます。
- ・ HPE OneView Remote Technician にアクセスするには、**HPE OneView の設定ページ内にある診断メニュー**を開きます。
- ・ HPE OneView Remote Support は必要ありません。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ・ ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/jp/ja/contact-hpe.html>

- ・ ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- ・ テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- ・ 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- ・ オペレーティングシステム名およびバージョン
- ・ ファームウェアバージョン
- ・ エラーメッセージ
- ・ 製品固有のレポートおよびログ
- ・ アドオン製品またはコンポーネント
- ・ 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- ・ 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- ・ 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<http://www.hpe.com/support/downloads>

Software Depot

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- ・ eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates>

- ・ お客様の資格を表示、アップデート、または契約や保証をお客様のプロファイルにリンクするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページに移動します。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

- ❗ **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パートをセットアップしておく必要があります。

カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare>

HPE データセンターケアサービス

<http://www.hpe.com/services/datacentercare>

HPE プロアクティブケアサービス : サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス : サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts>

保証情報

ご使用の製品の保証に関する情報を表示するには、以下のリンクを参照してください。

HPE ProLiant と IA-32 サーバーおよびオプション

<http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE Enterprise および Cloudline サーバー

<http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPE ストレージ製品

<http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。このメールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。

アプライアンスの使用について

仮想アプライアンスコンソールの使用

仮想アプライアンスコンソールには、以下のことをサポートする制限付きのブラウザインターフェイスがあります。

- ・ DHCP 以外の環境でのアプライアンスのネットワーク構成
- ・ 管理者アカウントのパスワードリセット要求
- ・ 認定テクニカルサポートのための高度な診断

初めてアプライアンスにアクセスして、アプライアンスのネットワークを構成するには、仮想アプライアンスコンソールを使用します。仮想アプライアンスコンソールを使用すると、DHCP 以外の環境のネットワークにアプライアンスをブートストラップすることができます。仮想アプライアンスコンソールは、ブラウザの全機能を装備した代替のものではありません。

仮想アプライアンスコンソールが、ブラウザセッションを開始します。ブラウザは全画面表示であるため、タブを追加することはできません。ソフトウェアアップデートやファームウェアバンドル（SPP）のアップロードなど、ダイアログボックスからファイルを選択する必要がある操作は実行できません。「進む」や「戻る」といった基本的なブラウズ操作のみを実行できます。

表 3: 仮想アプライアンスコンソールのキーの組み合わせ

キーの組み合わせ	機能
Alt+← (Alt と左矢印)	前のページを参照
Alt+→ (Alt と右矢印)	次のページを参照
Ctrl++ (Ctrl とプラス記号)	拡大
Ctrl+- (Ctrl とハイフン)	縮小
Ctrl+0 (Ctrl とゼロ)	ズームをリセット
Ctrl+F	検索
Ctrl+R または F5	リロード/表示の更新
Ctrl+Alt+Backspace	ブラウザインターフェイスの再起動

アプライアンスコンソールへのアクセスの制御

ハイパーバイザー管理ソフトウェアを使用して、アプライアンスへのアクセスを制限します。これにより、未認可のユーザーがパスワードリセットおよびサービスアクセス機能にアクセスできなくなります。

一般的に、コンソールにアクセスする場合の合理的な用途は、次のとおりです。

- ・ ネットワーク構成に関する問題のトラブルシューティング
- ・ アプライアンスの管理者パスワードのリセット
- ・ 現場での認定テクニカルサポートによるサービスアクセスの有効化

仮想アプライアンスコンソールは、グラフィカルコンソールに表示されます。パスワードをリセットして HPE サービスにアクセスするには、非グラフィカルコンソールを使用します。

あるコンソールから別のコンソール（VMware vSphere および Microsoft Hyper-V）への切り替え：

1. 仮想アプライアンスコンソールを開きます。
2. **Ctrl + Alt** キーを押し続けます。
3. スペースキーを押して離します（VMware vSphere のみ）。
4. 非グラフィカルコンソールを選択するには **F1** キーを押して離し、グラフィカルコンソールを選択するには **F2** キーを押して離します。

コンソール間の切り替え（KVM）：

1. Virtual Machine Manager を開きます。
2. メニューバーで、非グラフィカルコンソールの場合は、**送信キー > Ctrl+Alt+F1** を選択し、グラフィカルコンソールの場合は**送信キー > Ctrl+Alt+F2** を選択します。

コンソールアクセスの制限

ハイパーバイザー自体の安全な管理方法によって、仮想アプライアンスへのコンソールアクセスを制限できます。

VMware vSphere の場合、この情報は、次の VMware の Web サイトから入手できます。

<http://www.vmware.com>

特に、vSphere の Console Interaction（コンソール操作）権限と、VMware の役割と権限を管理するためのベストプラクティスに関するトピックを検索して参照してください。

アプライアンス以外の場所での UI ヘルプの参照の有効化

アプライアンス以外の場所にある HPE OneView ヘルプシステムは、API スクリプトを作成する開発者や、アプライアンスにログインせずにローカルでヘルプにアクセスすることを望むユーザーにとって便利です。

手順

1. **Enterprise Information Library** に移動します。
2. HPE OneView オンラインヘルプの ZIP を選択し、自分のコンピューター、または Web サーバー上のローカルディレクトリに保存します。
3. 任意のユーティリティを使用して、.zip ファイルの内容を抽出します。
4. コンテンツディレクトリに移動します。
5. HPE OneView ヘルプシステムを開くには、index.html ファイルをダブルクリックします。

インストールの問題のトラブルシューティング

アプライアンスがネットワークにアクセスできない

症状

アプライアンスがネットワークにアクセスできない。

原因

アプライアンスネットワークが正しく構成されていません。

アクション

1. アプライアンスに ping を実行します。
2. VM コンソールから、ネットワーク構成が正しいことを確認します。
3. VM コンソールから、DNS IP アドレスが正しいことを確認します。
4. VM コンソールから、DNS サーバーが実行されていることを確認します。

仮想ディスクのサイズが正しくないため、アプライアンスの更新を続行できない

症状

仮想ディスクのサイズが正しくないため、アプライアンスの更新を続行できません。

アクション

アプライアンスの仮想ディスクが、製品のマニュアルに従って構成されているかどうかを確認します。問題が続く場合は、サポートダンプを作成およびダウンロードして、認定サポート担当者に詳しい分析を依頼してください。

VM ホストのパフォーマンスが低下している

症状

アプライアンスのパフォーマンス不足。

解決方法 1

原因

ホストマシンの電力管理が有効になっています。

アクション

1. ホストマシンで省電力が無効になっていることを確認します。
2. より強力なチップセットを搭載したホストマシンの使用を検討します。

3. アプライアンスに最低限の数の CPU とメモリ（CPU 8 個、24 GB の RAM）が割り当てられていることを確認します。

解決方法 2

原因

ハイパーバイザーホストの I/O パフォーマンス不足

アクション

1. RAID 構成を確認してください。RAID 構成は低速な I/O の原因となる場合があります。
2. VM をホストしている可能性のある SAN ストレージへの帯域幅を確認します。
3. 予約および共有設定が有効になっているかどうかを確認します。

詳細情報

[アプライアンスの VM とホストの要件\(5 ページ\)](#)

IPv6 アドレスのみを使用するデバイスで、一部のタスクとデバイス監視が機能しない

症状

IPv6 アドレスのみを持つデバイスで、一部のタスクとデバイス監視が機能しない。

原因

HPE OneView アプライアンスは、アプライアンスに IPv6 アドレスがある場合でも、IPv4 アドレスで構成されています。IPv6 アドレスのみを使用してデバイスを管理できる唯一の方法は、アプライアンスを IPv6 ネットワークモードで構成することです。

アクション

1. 管理対象デバイスに IPv4 アドレスを追加するか、デバイスを HPE OneView アプライアンスによって IPv6 モードで管理させます。

詳細情報

[HPE OneView アプライアンスのネットワークモードについて](#)

アプライアンスが IPv6 モードの場合に、タスクが失敗する

症状

アプライアンスでは、最初に IPv4 アドレスを HPE OneView に入力できますが、タスクはエラーメッセージを出して失敗します。

原因

HPE OneView は、IPv6 用に構成されていると、IPv4 ネットワーク上のデバイス間の通信を送受信できません。

アクション

1. アプライアンスが IPv6 用にのみ構成されている場合は、管理対象リソースが IPv6 アドレスを使用していることを確認してください。

詳細情報

[HPE OneView アプライアンスのネットワークモードについて](#)

vSphere VM ホストの時刻を手動で設定すると、VM が再起動しない

症状

アプライアンス VM が再起動せず、vSphere 仮想コンソールに次のエラーが表示されます。The superblock last mount time is in the future UNEXPECTED INCONSISTENCY; RUN fsck MANUALLY.

原因

アプライアンスが NTP を使用しておらず、VM ホスト時刻が間違っ過去時刻に設定された。

アクション

VM ホストの時刻設定を正しい時刻にリセットしてから、VM アプライアンスを再起動します。詳しくは、vSphere のドキュメントを参照してください。

アクション

アプライアンスまたは VM ホストが NTP クライアントとして構成されている場合は、NTP サーバーが正しく動作していることを確認します。

OVA ファイルを展開できない

症状

次のメッセージが表示されます。The OVF package is invalid and cannot be deployed.

解決方法 1

原因

選択されたパスに OVA ファイル名が含まれていません。

アクション

OVA ファイルディレクトリに存在する OVA ファイルの完全なアドレスを指定します。完全なアドレスには、ディレクトリ、ファイル名、およびファイル拡張子が含まれます。ディレクトリのアドレスのみを指定した場合、このメッセージが表示されます。

解決方法 2

原因

FTP ファイル転送モードが `binary` に設定されていません。

アクション

転送モードを `binary` に設定して転送を再度実行してから、チェックサムを確認します。

解決方法 3

原因

ファイルが破損しているか、部分的にダウンロードされた可能性があります。

アクション

ダウンロードを再度実行し、チェックサムを確認します。

ログインできない

症状

アプライアンスに初めてログインするときに、デフォルトの認証情報で失敗する。

解決方法 1

原因

ファクトリーエクスペンスプロセスを使用してユーザー提供のパスワードを選択したため、デフォルトの **administrator / admin** パスワードを使用できません。

アクション

ファクトリーエクスペンスプロセスのフォームで指定したユーザー名とパスワードを入力してください。

解決方法 2

原因

アプライアンスがすでに構成されており、デフォルトパスワードが変更されています。

アクション

1. 初期セットアップを実行した管理者に連絡し、新しいパスワードを取得します。
2. インストールプロセスをもう一度開始します。